

新代表に聞く

Interview

非鉄総合商社、川嶋（本社：浜松市西区）を中核とする川島グループの代表に川嶋一義氏が就任した。川島グループの2代目代表として、国内有数の規模を誇る非鉄リサイクルグループの指揮を執る。川嶋新代表にグループの現状と今後の方向性について聞いた。



川島グループ 川嶋一義氏

▽川嶋一義（かわしま・かずよし）氏＝1993年3月明治学院大経済卒、非鉄商社に就職。94年川島グループ入社。川島グループにおける海外事業や研究開発事業を手掛け、2002年にアルケムジャパン社長。19年川嶋代表取締役。23年川島グループ代表就任。学生時代はバスケットをプレー。現在でも休日はB1リーグの地元チームの試合などを観戦する。ヘリコプターの操縦ライセンスも持つ。人生を振り返った時に「苦勞したことや財産になる」との考えのもと、困難なことがでも前向きに取り組むことがモットー。68年2月5日生まれ。静岡県出身。

総合力発揮へ組織化推進

「就任の抱負を。まずは創業者であり、感謝を申し上げたい。今川島グループ代表の川嶋一義氏にお別れの会に多量なご意見を頂戴し、それを踏まえていくため、グループ一丸となつてリスタートしたい。」

「川島グループの強みは何か。」「非鉄金属リサイクルの中で有数の組織力、事業規模があるところ、各事業会社の優秀な経営陣の存在がある。最大の強みは取引先、長期にわたって築いてきた信頼関係をあると感じている。」

「手始めに何かから手掛けていくのか。」「昨今、マーケットは変革期を迎えており、それに対応する動きが求められている。だが、1社だけでは対応が難しいことで、グループが総力を結集すれば成し遂げられることもあると考えている。今後、3年間ほどの期間を設けてグループの組織化を推進し、総合力を発揮できる土台作りを進めていきたい。」

「具体的には。」「シナジー効果を生かすには、しやす組織づくりが重要で、そのために短期的な視点だけではなく、長期的な視点を重視していきたい。人や金、モノのマネジメントを組織的に、効果の最大化を図っていくつもり。これからの大型投資なども可能になり、1企業ではできない事業展開につなげるのができる。そのため3年間は新規の大型投資の計画は控えるが、すでに進んでいる案件については着実に実行していく。また、グループの方向性を明確に

開することを決めた。新生・川島グループのシンボルとして見て分りやすい先進的な建物や、グループ全体のブランドインクにつなげ、人や情報が集まる場にしていく。」

「将来的な新規事業展開については。」「アルミを中心とする非鉄リサイクル事業は創業事業であり、引き続き重点的に進めていく。それ以外の分野についても柔軟な発想を持ち続け、積極的に事業展開を進めていきたい。特に技術開発には力を入れていく。先端事業を牽引することは企業や社員のモチベーションにもつながる。適切に判断して投資を進めていく。」

「海外展開については。」「常に関心を持って動向を注視している。チャンスがあれば積極的な進出を検討していきたい。」

「4～9月期のグループの業績は。」「上半期は非鉄金属事業や機械工業事業、シニア

「「新規コロナウイルス感染症の影響などもあり計画を中断していたが、現本社が手続になってきたことやユーザーからの要請、人材確保や研究開発の必要性から計画を再

「「物産業である金属スクラップ問屋のノウハウは情報にこそある。その情報を集約、分析し、戦略に結び付けることで新しい事業展開が開けてくる」と考えている。それを実現するツールの一つとしてデジタル化が必要だと考えている。そのため仕入れ、販売、物流など多方面で検討を進めている。また、事務作業についても本部である川嶋を中心にペーパーレス化を進めている。これをベースにグループ各社に取り組みを広げ、全体効率の最適化を図っていく。」

「「物産業である金属スクラップ問屋のノウハウは情報にこそある。その情報を集約、分析し、戦略に結び付けることで新しい事業展開が開けてくる」と考えている。それを実現するツールの一つとしてデジタル化が必要だと考えている。そのため仕入れ、販売、物流など多方面で検討を進めている。また、事務作業についても本部である川嶋を中心にペーパーレス化を進めている。これをベースにグループ各社に取り組みを広げ、全体効率の最適化を図っていく。」

（服部 友裕）